



休耕田の増えてきた谷津田(町屋町)
安嶋 隆さん

水の思い出 ③⑨

ほたる
蛍

「いくこちゃん、起きてごらん」ささやくような母の声で、夜中に目を覚ました。「来てごらん、あれ」楽しげに指さす先の天井に、淡くかすかな光を放つホタルがいた。生まれて初めて見るその光は、あまりにも小さく儂かったけれど、楽しそうな母の笑顔と共に私の心に鮮やかに焼きついた。小学生の頃の思い出である。

時を経て、縁あってこの地に嫁いだ。都会での暮らしが長かった私にとって、自然豊かな山里での生活は、穏やかで心を癒してくれた反面、気候風土の違い・田舎ならではの習慣やお付き合いの違いが、しばしば私を戸惑わせた。6月末のある夜、夫が「いいものみせてやるよ」と私を車に乗せた。出かけたのは、家からほんの30mほど坂道を下った所、小川と小さな谷津田と道が交差する橋の近くだった。いきなりエンジンを切りライトを消すと、あたりは真っ暗闇につつまれた。不思議そうにしている私の様子を楽しむように、今度はハザードランプを点滅させはじめた。「ほら、来た！」夫の指さす先の闇に目をこらすと、フワフワと漂う小さな光、あの懐かしいホタルだった。車を降りて懐中電灯を点滅させるとさらに数を増やしたホタルが、まるで友達を見つけたかのように近づいてくる。夫はすぐに数匹捕まえて私の手のひらにのせると「梅雨に入って空気が湿らないと出て来ないんだ」と教えてくれた。自然の中で見たその光は、文字が読めそうな程力強く、わたしの手の中で緑の宝石のように輝いていた。初めての田舎暮らしと、苦手だった梅雨は、ちょっぴり私のお気に入りになった。

今年ももう少して夏が来る。梅雨に入ればまたホタルに逢えるだろう。♪ホ・ホ・ホタル来い
こっちの水は甘いぞ…いや、水の甘さを教えてもらったのは私の方かな？ 菊池 幾子(天下野町)

小さな仲間探しに行こう

春とともに野山に咲く花や飛びかう虫たち。普段、何気なく観ている虫や植物をよ〜く見てみるとそれぞれに特徴があります。古平先生、安嶋先生にご協力いただき紹介します。

(中里 勇、鈴木 久美子)



ヒグラシ

ハチの仲間も大勢います



ビロードツリアブ

飛びながら花の蜜を吸います。和名の由来は、ホバリングしながら空中も静止している様子が、吊下げられたように見えることから。



クマバチ(コシブトハナバチ科)

クマバチの誤解

2cmを超える体長と、黒い体と黄色い毛でよく目立つハチ。花を求めて、特にフジの花に来訪するところをよく目にする。大きさの似たスズメバチと混同され危険と思われるがちであるが、きわめて温厚。スズメバチの黄色と黒の縞模様とクマバチのベストを着たような黄色い胸は外見上見分けはしやすい。他のハナバチと同じように、攻撃しなければ人を襲うことは少ない。



スズメバチ

(クマンバチとも呼ばれています)



セイヨウミツバチと蓮華草



ハナアブ

ハチに擬態して、まちがえられるが刺すことはない。



クロマルハナバチ(ミツバチ科)



日本ミツバチ

ニホンミツバチは巣の環境が悪くなると新しい場所にすみかを替えてしまう事(逃亡)があるため、はちみつ採取にはセイヨウミツバチが多く使われているそうです。



タガメ

絶滅危惧種に指定されました



タマムシ(日本名・吉丁虫)

昔からタンスにタマムシを入れておくと美しい着物が増えるなどという言い伝えがあります。

絶滅危惧種



スブタ
名前を聞くとおいしそう。「簀蓋」と書く。



イヌタヌキモ (犬狸藻)
全体の形が狸の尾に似ている。



タコノアシ
枝に多くの花が並んでいる様子が吸盤のついたこの足に見えるところからついた名。



ミズオオバコ
白く小さな花が印象的なミズオオバコ。これも最近急激に減少し絶滅が心配されています。



デンジソウ
「田字草」と書く。水に浮かんだ葉の形が「田」の字に似ているところからついた名。どこにでもありそうな植物に思えるが実は絶滅危惧種です。



ホッソモ
お坊さんが手にする仏具(払子)に似ているところから。

名前の由来は？



ススヤアカバナ
「ススヤ」はサハリン南部のススヤ川のこと。国内では石川県、富山県、茨城県でしか見つからない。渡り鳥が運んだとの説もある。



ウリカワ
葉がマクワウリの皮をむいた形に似ているところから名がついた。



クズ
風邪のひきはじめに飲む葛根湯の主剤です。



サンショウモ
山椒の葉に似ているところから名づけられた。

久米小学校の ファーブル!?



古平均先生



モンオナガバチ

■現代のファーブル?

今回の特集で紹介した虫の写真は久米小学校の古平均校長先生が久米小学校近辺で撮影した写真です。現代のファーブル?とってしまうほど、昆虫をはじめ植物、キノコに詳しく、自然そのものが好きな先生です。理科を教えていた頃は、教室で授業するより外で授業するのが好きで植物観察など、よく外に出て授業をしていたそうです。



ミヤマカラスアゲハ

■じっと待つ…

久米小学校に赴任して間もない頃、朝早く小学校近くの山で先生を見かけたので何をしていたのか聞いたところ、毎朝出勤する時間より少し早く出て、

久米小学校学区の植物など自然を見ていたと言っていました。

夏休みの時期は学区の山や野原などに出かけて昆虫などの観察や撮影をしているほどの昆虫好き。蝶の撮影時などには、近づいていくと逃げてしまうので、蝶が危険だと思わなくなり蝶から近づいてくるまで、じっと待っている事も良くあると楽しそうに語っていました。

■カメラ目線の虫たち

お気に入りの写真データなど、見せていただいたものを見ると本当に凄い写真ばかりです。蜂や蝶など、常に動いている虫を撮影するとピントをあわせるのが難しいのですが、古平校長先生が撮影した写真は、まるで虫がポーズをとっているかのような写真ばかりなのです。



全校朝会スライドショー

■スライドショー

全校朝会の時、古平校長先生はパワーポイントを使い児童に校庭や近郊で撮影した昆虫や植物など、スライドを説明しながら見せています。「この虫を見た事ある人」と聞くとうれしそうに手を挙げる子供たち、時には蛇などを見せたりみんな楽しそうに見ています。いつもスライドショーをできるわけでは



なく、児童の表彰などで時間がない時は、お楽しみのスライドショータイムはお預けになる事もあるそうです。

時には、校庭に変わった虫がいると児童から古平校長先生に言って来る時もあり、もちろん撮影しては、スライドショーで全校児童に楽しんで見せているそうです。 (中里 勇)



カラスウリ

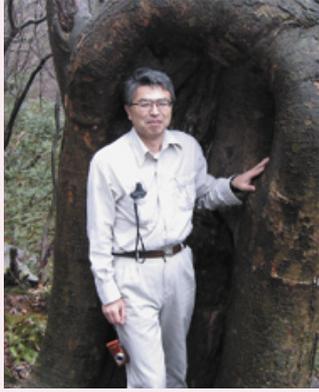


タマゴダケ



ツチバチ

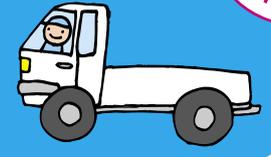
久米小学校の子供たちが校庭で見つけた虫。校長先生のところに子供たちが報告に来て先生が写真を撮ってくれたものです。



安嶋 隆先生

軽トラで行く 植物探し

2~3ページの絶滅危惧種の写真はすべて安嶋隆先生が写したものです。安嶋先生は長年田んぼやあぜ道にはえる「雑草」と呼ばれる植物の調査をしてきました。(鈴木 久美子)



毎年、田んぼの季節になると腕に黄色の腕章つけて、あらゆる所を見て廻る。畦道だけでなく田の中まで。田の水のなかに隠れている草は安嶋先生にはわかってしまうから不思議です。「なんせ田んぼを見て廻るといっても他人の所有地だから、怪しまれることが多いです」植物調査の理解を得るまで苦労するのですとのこと。
昔はよく見られた草たちも環境の変化により絶滅種になるものも多い。また日々変化する状況のなかで、昨日あったからといって、今日あるとも限らない。
「植物調査をしているから協力お願いします。と言いつら

いですよね。田んぼを作る人には稲が大事。田の草は結局雑草ですからね。」

特集で紹介しているように雑草とひとくくりと呼ばれてはいても、それぞれにおもしろい名前がついていたり、小さいが美しい花を咲かせるものもたくさんあります。名前をきくと、「その通り」と思えるような名をひとつひとつの植物につけた昔の人々は、本当によく特徴をとらえているなあとおどろかされます。
「この特集を機会に、田のまわりの草たちに興味をもってもらえたらうれしいです。」「これらを見かけたら、ぜひ見かけた場所などおしえて下さいネ。」

優しいホタルかご



この美しいせん状の麦わら細工は、「ホタルかご」です。なぜか、底がありません。不思議で美しいかごに心引かれ、作者の方をお訪ねしてきました。豊田欣弘さんは、お仕事の合間に竹やわらなど自然の素材を使った工芸品を作られています。絶妙なバランスで揺れる竹とんぼのやじろべえ、細かくけずった竹ひごを組んだりっぱな虫かご、わらで編んだそうり等。作品のほとんどは、お孫さんや親戚の子供たちなど、身近な子供たちの為に作られています。またその技術をかわれ、小学校に出向いて子供たちに物づくりや昔の生活体験などを伝えるお仕事もなさっています。「昔のじいちゃん」と呼ばれている豊田さんは子供たちの人気者のようです。

ホタルかごになぜ底がないのかお聞きすると、「ホタルは上へ上へ登っていく性質があるので、底はいらないんだよ。」とのこと。材料の小麦わらは、「畑の端にわざと肥料をかけないところを残して、細く色のきれいなわらを少しとっておく」のだとか、「材料が少なくて貴重でねえ…」少し残念そうにそうつぶやきました。子供たちには、ホタルの捕まえ方も教えますが、必ず最後に「逃がしてあげること」を教えているそうです。

数年前、このかごでホタル狩りをしましたが、真っ暗闇の中で5匹も捕まえると驚くほど明るく、かごからもらえる光の幻想的な美しさに息をのみました。かごの中をクルクルとらせん状に登っていったホタルの何匹かは、やがて自分でかごの隙間をみつけて、逃げていきました。人にも自然にも優しいホタルかごです。

(菊池 幾子)



子ども達に“生きる力”を… 『久慈の杜100km徒歩の旅』



この『久慈の杜100km徒歩の旅』は、小学4年生～6年生を対象にボランティアスタッフのサポートにより常陸太田市、常陸大宮市、大子町の3市町を1日平均20km合計100kmの道のりを4泊5日の日程で自分の足で歩き通す事業です。2008年8月6日(水)～10日(日)三度笠を付けた子ども達が皆さんの近所を歩くかも!



福岡県つくし路100km徒歩の旅

近年の日本は経済優先で何事も進んできたような気がいたします。その結果、人の痛みを感じることや、感謝する気持ち

や、人間としての尊厳や奉仕の心など数え切れないものが希薄になってきたと感じます。子ども達にとっては非常に「つらい」大変な5日間となりますが、この試練を自分の力で乗り越えることにより素晴らしい自信となり、何事もやればできるという強い精神力が宿るはずです。『体験・経験の中に学ぶ』その学びが人としての成長ではないでしょうか。

子ども達に“生きる力”を!この夏一生の思い出を!

ひとり一人の勇気ある一歩が、魅力ある地域の未来を創る

『久慈の杜100km徒歩の旅』

ボランティアスタッフ募集

お気軽にお越し下さい!
スタッフ説明会を5月に開催します

※説明会参加後、参加・不参加を決定してもOKです。

2008『久慈の杜100km徒歩の旅』開催決定
8月6日(水)～10日(日)

■常陸太田市～常陸大宮市～大子町を通るルート

■内容: 当事業に参加する小学生のサポート、期間中の生活支援全般

■対象者: 大学生、短大生、専門学校生、高校生及び一般
心身共に健康な高校生以上の学生又は社会人の方(簡単な面接をさせていただきます)
事業日程だけでなく、ボランティア研修会及びボランティアミーティングに参加できる方。

■参加費: 5,000円(研修費、三度笠、記念Tシャツ、保険代、事業行程中の食事代など)

■応募締切: 2008年5月31日(土)

■応募方法: 住所・氏名・年齢(学年)、性別、電話番号、学校名を明記のうえE-mailにてご応募下さい。
E-mail: ebisusama@shibayama-inc.co.jp
TEL: 090-7263-4696 FAX: 029-295-9102
ご不明な点は久慈の杜100km徒歩の旅行実行委員会 事務局 柴山まで ください。

説明会当日、ご都合の悪い方は上記連絡先までお問い合わせ下さい。

JCI 社団法人 常陸太田青年会議所

事務局 〒993-0001 茨城県常陸太田市常陸3200
後援: 茨城県教育庁・常陸太田市・常陸大宮市・大子町・常陸太田市教育委員会・常陸大宮市教育委員会・大子町教育委員会

学生ボランティアスタッフ募集

内容: 『久慈の杜100km徒歩の旅』に参加する小学生のサポート、期間中の生活支援全般
対象者: 大学生、短大生、専門学校生、高校生及び一般
心身共に健康な高校生以上の学生または、社会人の方(簡単な面接をさせていただきます)
事業日程だけでなく、ボランティア研修会及びボランティアミーティング参加できる方

参加費: 5,000円

(研修費、三度笠、記念Tシャツ、保険代、事業行程中の食事代など)

応募締切: 2008年5月31日(土)

応募方法: 住所・氏名・年齢(学年)、性別、電話番号、学校名を明記のうえE-mailにてご応募下さい

E-mail: ebisusama@shibayama-inc.co.jp

問い合わせ: 『久慈の杜100km徒歩の旅』実行委員会

事務局 柴山まで

TEL: 090-7263-469

※5月に説明会を開催いたします。詳しくは、事務局へお問い合わせください。



子育て奮闘記

踊るママパラダイス 39

我が家の末っ子、コキノが5年生になります。何でも慎重に育てたスミレと違って「ま、この位は…」と放っておいた分、今となっては、コントロールが効きません。

学校ではイベントになると大活躍、と先生に誉められますが、私としては、「学校でやる分、家でもしっかりやってくれよ。」と言いたい。そう、コキノは学校生活で精一杯活躍する姿とは裏腹に、家ではわがまま言い放題。言い訳放題。姉ちゃん、兄ちゃんとは互角に張り合って我を通す怪獣みたいな子どもです。口癖は「どうせ、お姉ちゃん(お兄ちゃん)の方が可愛いんでしょう!」

上の子と同じようにやっても追いつかない、そう感じているのかもしれませんが。できるだけ、自分の良いところを伸ばして欲しいなと思います。スミレがピアノを弾く姿に憧れと同時に追いつけない、追いつくには姉のしていた以上に努力しなければいけないことを良く知っている様に感じます。私はコキノがそんな思いに捕らわれることを望みません。「お姉ちゃんの方が上手いから。」と言ってあきらめるのだけはやめて欲しいです。だって、3人の子どもは同じように育てても違う子どもですから。

コキノは、挨拶がすごく良くできる子どもです。明るくて、この子がいて良かったと思うことが沢山あります。家でいじけている姿をよく見かけるので母の気持ちを知ってもらおうと思って綴りました。コキノ、愛は一つを分けるのではなくて、二つも三つも増えていく物なんだよ。

—— わいわいネット 織田 裕子 ——

プライドですか?
毎週みてるくせに…



百姓田ちゃんのたべもの日誌⑨ ちよと農天気!

『山の恵みの山菜料理』

山菜採りの季節。我が家の裏山でもちょっと入れればシドキ、タカノツメ、コシアブラ、フキにゼンマイ、ワラビなど、知っていれば採れるものがたくさんある。最初に里美に来たころはせいぜいワラビくらいしか分からなかったが、今はいろんな山菜と顔見知りになった。村の人たちはこの季節、足しげく山に通って、お目当ての山菜を摘んでいる。普段はやっと腰を曲げて歩いているようなばあちゃんも、いざ山に行くとなら返ってしまい、がさ藪に入って行ったかと思うと、小一時間でかごに一杯の山菜を摘んで帰ってくる。「病気みてえなものだ」と言って毎日山に通うばあちゃんや、自分の裏庭の山菜畑で腕一杯にワラビを摘んで、玄関先に届けてくれるばあちゃん。なにしろこの季節はみんなこぞって山菜をとって、天ぷら・煮物・漬け物などにして楽しみ、また、山菜のない季節の貴重な糧として塩漬けにして保存しておく。年中行事の際には必ず作る山菜の煮物も、この季節に手間暇惜しまず採っ

て漬けての山菜仕事をしたからこそ、味わえる美味しさなのだ。

ところが、このところ皆山に行くたびに山菜が少なくなった、採れないと言う。原因の一つは広葉樹の茂る落ち葉山のようなところに、人が入らなくなったため下草がはびこり、山菜が出る場所を覆ってしまっていること。そして戦後植林されたスギ・ヒノキが伐採されぬまま大きくなり、山の日陰を増やしてしまい、山菜が育たなくなったことのようなのだ。

山のものはみんなのもの、ふんだんに採っていいと思いがちだが、そうではない。山の産物＝山菜といえども、ある程度人が入って下草を刈ったり、落ち葉を集めたり、薪を集めたりして、姿を現すものもある。大きくなりすぎた木を切ることで、日当たりを良くするのも人間の仕事だ。

昔と違って山と私たちの関わりも薄れてきているなか、山菜採りの季節だけは山を見直して、ただ採り放題にとるだけでなく、これからも採り続けられるように根っこを残したり、木を養生してあげたりしてやることは大事。山はみんなのものだけど、山を育てるのもみんななんですね。

(木の里農園 布施 美木)



リレー
エッセイ

「思い出の本」「ねないこだれだ」～39～

久米町 後藤久美子



「まだねむたくない」「まだあそびたいもん」
年子の子どもたちは夜になってもまだ元気です。でも8時がすぎ、9時も近くなってくると、私はものすごーくこわーい声と顔でつぶやきます。

「とけいになります。ボンボンボン……」
「こんなじかんにおきているのはだーれだ」
すると子どもたちはおもしろいように静かになり、ひとりはカーテンをきっちりしめなおし、ひとりは急いでふとんにもぐりこみます。なんででしょう？

子どもたちは、こわいお母さんの「ねなさいーい！」の声よりお化けがこわいのです。この本をすっかり暗記してしまっただけ私はいくらも続けます。「よなかにあそぶ子はおばけにおなり～」すると、子どもたちは「わかったからもうやめて～」といひます。これで静かになるのです。本の力ってすごいなと思います。

挿絵のこわさもありますが、この本は最後には子どもがお化けになって、お化けの世界に行ってしまうのですから、子どもにとってはこわいはずですが、でも私にとっては「いっしょにねようよ」としがみついてくる子どもたちをぎゅーっと抱きしめながら、眠りにつく、なんだか子どもたちとの大切な時間を過ごすことの大切さを感じさせてくれる大好きな本なのです。

もうだいぶ痛んでしまいましたが、ずっととっておきたい一冊なのです。(次回は 大里町 千葉 智子さん)

ほつ
とひといき

太田のホタル

常陸太田市内にいるホタルについて紹介します。

ホタルは、甲虫類のグループの一つで〇〇ホタルとつく昆虫は日本に50種程度います。でもその中で、初夏の風物詩ともなっている、きれいな光を出すホタルは、ヘイケボタルとゲンジボタルの2種です。ただ、2種の間でおもしろい違いが見られますのでまとめてみました。

	ゲンジボタル	ヘイケボタル
体長	12～18mm(2倍大きい)	7～10mm
時期	6月～7月(初夏だけ)	6月～8月
場所	山すその小さな流れ(流れのある所)	水田や池
習性	高い所まで飛ぶ	地面近くでも光る
幼虫のえさ	カワニナ	タニシ
模様	赤い胸の黒線の両端が細くなる	赤い胸の黒線が太く平行

どちらのホタルも山奥では、見られなくなってしまいます。里山で人と一緒に生活してきた昆虫です。これからも一緒に生活できる町でありたいと思います。また、もし水の流れのない山奥で光るホタルをみつけたらご連絡下さい、まだ市内で見つけないことのないヒメボタルの可能性大です。(佐々木 泰弘)

ちよつとひといき

はちみつ

小磯養蜂場

常陸太田市千寿町769 TEL 0294-76-2359

5月中旬頃から小磯さんが大事に飼っているミツバチ達がアカシヤの花から一匹一匹マッチ棒の頭ぐらい花粉を巣箱に集めてできた、とっても甘いはちみつです。

今からが旬のはちみつを是非味わってみてください。(中里 勇)



★★★はちみつ★★★
500g…1,000円
600g…1,200円
1.2kg…2,000円
2.4kg…3,800円

蛭かご
プレゼント

5ページで紹介した豊田さん作の蛭かごを3名の方にプレゼントいたします。

宛先 〒313-0061 常陸太田市中城町3280

常陸太田市生涯学習センター内フォonzネットワーク

締切 4月30日必着

※ハガキにお名前・ご住所・年齢・電話番号をお書きの上お申し込みください。



編集
後記

フォonzの創刊号発行は2000年6月、足かけ9年で40回発行して参りました。市民の皆様からたくさんのご意見・ご感想・応援をいただき、フォonzネットワークスタッフ一同心からお礼申し上げます。お寄せいただいたご意見・ご感想の中からいくつかご紹介いたします。(塩原 慶子)

Q 閉じるための穴があると便利ではありませんか？

A 特集のページなどは見開き全面を使って記事を作る場合が多く、穴を開けてしまうと見えない部分が出てしまうことがありますため、穴を開けておりません。ご了承ください。

Q 他の広報誌等と綴じ方が逆ですね？

A フォonzは横書きで作成しておりますため、綴じ方が縦書きのものとは逆になっております。読みやすさを優先したためですので、どうぞご理解ください。

これからも皆様が必要とされる情報をお届けできるようがんばります。どうぞよろしくお祈りいたします。